

不死の道

の中

① 昔、人に不死の道を知ると言ふ者有り。

いうがいた

② 燕の君主に人をして之を受けしむ。

させようとした

その人は
急いで行かなかつたので

不死の道を

が

③ 捷やかならずして、言ふ者死す。

死んだ

君主とてもは

その

今にも

死罪を

与えよう

した

④ 燕の君甚だ其の使者を怒り、将に誅を加へんとす。

寵愛されている家臣

は

忠告し

言うことには

が

心配する

こと

の者は、

⑤ 幸臣

諫め

て曰はく、「人の憂ふる所の者は、

急であること

ありません

死より急なるは莫し。

自分が大切にしている

もの

上のもの

ありません

⑥ 己の重んずる所の者は、生より過ぎたるは莫し。

は

その

失つた

⑦ 彼自ら其の生を喪へり。

どうして

君主に

死なないようにさせられようか

いや、死なないようにさせられませんか

⑧ 安くんぞ能く君をして死せざらしめんや。」と。

そこで死者を
死罪にしなかつた

⑨ 乃ち誅せず。

彼も

いて

またその（不死の）

思つた

⑩ 斉子なるもの有り、亦其の道を学ばんと欲す。

不死の道を

語る

が

死んだこと

そこで

胸

打つ

残念がつた

⑪ 言ふ者の死せるを聞き、乃ち膺を撫して恨む。

⑫ 富子聞きて之をはそのことを 笑ひて曰はく、「夫れ笑い この人（斉子） 学ばんと笑つ 言うことには 欲する学ぼう 所はしているもの

不死なり。である

⑬ 其の人その（不死の道を語る） 已に死して、而もは 猶ほ之を恨む。すでに 死ん でその上 やはり これ（不死の道を学べなかつたこと）

⑭ 是れ学これ は を為す所以学ぶこと の を知らず。理由 ないのだ」と。

⑮ 胡子曰はく、「富子の言はが 非なり。言うことには 言っていること 間違っているのだ

⑯ 凡そ人総じて には術技術 有りて行ふ能はあつ 実行することができない ざる者、有いるり。

⑰ 能く行ひて其の術実行することができ その 技術 無き者も、亦有ない また いるり。

⑱ 衛人衛の人 に数を善くする者有占い 上手に 行う がり。

⑲ 死に臨みて臨んで 訣を以つて其の子に諭す。秘訣 その わからせた

⑳ 其の子其の言その は を志すも、而もその 言葉 心に留めておいたが しかし 行ふ能は実行することはできなかったのだ ざるなり。

・ 他人之を問へば、其の父の言ふ所を以つて之に告ぐ。ある人 が このこと 尋ねると 言つたこと この人 告げた

・ 問ふ者其の言を用ゐて、其の術を行ふに、尋ねた は その（教えてもらつた） 言葉 用い その 技術 行ふと

その 同様にできた
其の父と差ふ無し。

もしそうであるならば 死んだ者（父）は
・若し 然らば、死者 奚 どうして
為れぞ 不死の術
生術を

説くことができないことがあろうか（いや、説くことができる）
言ふ能はざらんや。」と。